

平成 19 年度・平成 20 年度
～「実践型人材養成システム」普及のための地域モデル事業
実施団体好事例集～
【⑦静岡県ソフトウェア事業協同組合(プログラマー)】

○モデル事業導入にあたって

国際社会の進んだ社会においてソフトウェア製品開発の国内の需要は、人件費が安い国外へ流出する傾向にあるが、国外の製品が決して高品質とは言えない現状や、言葉やコミュニケーション等の意志疎通がうまく図れず製品が発注側のイメージとかけ離れたものが出来てしまったと言ったトラブルも多く聞かれます。

こうした中、とりわけ地方において国内でも比較的人件費が安いことと、高い品質を確保することで国際競争力を高めて行くことが重要です。特に中小企業について、現在の顧客維持やさらなる拡大のためには中長期的な経営戦略に関連させた人材育成に取り組み、ITSSスキルレベルに対応させた高度な人材を育成することが経営に直結すると認識しています。

当組合ではこのような背景や危機意識から、組合員のみならず、全国の同業種企業において実践型人材養成システムの導入が促進され、国際競争力の強化に寄与するため本モデル事業に取り組むこととしました。

○企業のメリット

- ・ ITSS（レベル1＝エントリーレベル）に準拠した訓練カリキュラム及び能力評価基準を用いた体系的な職業訓練の実施
- ・ 社内全体の就業意識向上
- ・ 自社の教育訓練担当者のレベルアップ
- ・ 助成制度の活用による訓練実施に係る経費や訓練生の賃金の負担軽減

○モデル事業実施（訓練実施）における好事例

〈静岡県ソフトウェア事業協同組合から〉

- ・ Off-JT の実施について、質問やわからない点に関してのフォローを随時行い、Off-JT 全体を通して訓練生の理解度・満足度は高く、特に日々の学習をグループワークと連動させ、実際に肌で感じていただいた点が学習効果に繋がりました。
- ・ Off-JT において、研修生数名で開発プロジェクトを組み、ソフトウェア開発の各フェーズを体験させることで、開発においてコミュニケーション能

- 力と報告連絡相談がいかに重要であるか、を認識させる工夫を行いました。
- ・ 訓練が修了した後の段階においても、学習方法、職場での仕事の進め方等多岐にわたるメールのキャッチボールが Off-JT の講師陣との間で行われています。講師陣が悩みや問題点に関して受け入れる体制を作れたためです。
 - ・ 各社の OJT に対する毎月行うフォローミーティング・コンサルテーションにおいても、以下の点で大きな成果・実績を積むことができました。
 - 社内の研修体制だけでは気づかない OJT 研修内容上の問題点（たとえば日報作成方法、報告連絡相談・コミュニケーション方法における問題点等）に気づく機会を提供することができ、研修のレベルアップが可能となりました。
 - 他社の OJT 研修において効果が出ているノウハウ等を伝えることができました。
 - 社内体制だけでは引き出すことができない、研修生が抱えている問題点・悩みを引き出し、解決に向かう姿勢を社内に作り出すことができました。
 - 研修生の考えている夢・ビジョンを引き出し、社内の仕事との関連性を導き、研修生の仕事への動機付けを行うことができました。
 - 他社の研修生とのコミュニケーション・情報交換の必要性を伝えることができました。
 - OJT 研修に直接タッチしていない上司・幹部社員・経営者の方たちに、自身の会社の中で行われている OJT 研修の問題点に気づいてもらう機会を提供することができ、研修生のみならず研修・育成担当者自身のスキルアップにつなげることができました。
 - 自社内だけで行っている OJT において見受けられる馴れ合いや甘え等の雰囲気解消と緊張感の提供ができ、会社全体として OJT の目的や達成意識の向上を図ることができました。

〈訓練実施企業から〉

- ・ 訓練が進むにつれて、自力で問題を解決しようとする姿勢が伺えた。
- ・ OJT において、タイミング良く 1 つのプロジェクト完了まで携わらせることができたのが体系的かつ、実践的で良かった。
- ・ Off-JT では、知識の補強ができ、また、色々な内容を広く学べて良い。
- ・ コミュニケーションスキルが向上した。
- ・ 能力評価を通じて目標設定や自己分析が出来る点は良い。

〈訓練生から〉

- ・ 実技が多く、自分はどこが出来てどこが理解出来ないのか自覚しながら

学ぶことができ、理解しやすかった。

- ・ 難しい講義の内容もわかりやすく丁寧に教えていただき、大変勉強になりました。
- ・ 用語の説明も理解しやすい言葉で説明してもらい、研修に参加出来て本当に良かったと感じます。
- ・ Off-JT で使用したテキストは、今後の上流工程の作業に当たって工程を確認出来る内容なので、またこのテキストを読み返して講義内容を思い出しながら学習していきたい。

○これから取り組む企業の方へ

今回、実践型人材養成システム普及のための地域モデル事業に取り組んだことにより、ソフトウェア企業の研修標準化を行い、実践的に人を育成する方向性を打ち出せました。

さらに改善点をブラッシュアップすることにより、今までバラバラであったソフトウェア業界において先導的役割を果たし、静岡発人材育成標準化パターンが生まれるものと期待していますが、いま、まさにスタート地点に立ったところです。今後においては、ITSS レベル1以降の研修ロードマップや、キャリアパスの策定、それに合わせた人事制度の整備等、中長期的な体制整備が課題です。